

日独交流150周年記念事業について

2011年4月8日

趣 意 書

日本とドイツとの交流は**2011年**(来年)に**150周年**を迎えます。150年前すなわち**1861年**は明治維新の7年前です。そのころ日本とドイツはどのようなきっかけで交流を持ちはじめたのでしょうか。

江戸時代も幕末期、安政年間に至るとアメリカやイギリス、フランスそしてロシアの艦隊が日本列島に急接近し、徳川幕府に強く開港を迫るようになりました。安政5年(1858)に幕府はアメリカと、さらにオランダ、ロシア、イギリス、フランスと修好通商条約を締結しました。やや遅れてプロシアの東方アジア遠征団が1860年秋に江戸沖に艦隊を寄せ、1861年に幕府と修好通商条約を結びました。

その後プロシアはベルリンを拠点として**1867年**に北ドイツ連邦を作り、1870年に対フランス戦争に勝利し、翌年には近代的統一国家「ドイツ帝国」を成立させました。ちょうどそのころ日本は徳川時代から明治時代に転換し、近代統一国家への一步を踏み出したばかりで、国の近代化に必要な制度や学問を欧米諸国から積極的に取り入れようと努めました。

なかでも短期間に近代的統一国家をつくり、列強の仲間入りを果たしたドイツを明治政府は最良のお手本としました。そこで政府は優秀な若者をドイツへ留学させ、同時にドイツから学者たちを招いて、医学・薬学・化学・工学・法学・哲学・音楽などを学び入れました。身近なところでは北九州の石炭産業や福岡市の鉄道敷設などにその成果が現れました。

この150年を振り返ると我が国はドイツとの交流の中でひたすら学ぶ立場にありました。そうした過去に感謝しつつも、従来の受動的態度を反省もし、今後はお互いに学び合える真の交流へ方向転換していかねばなりません。日独交流**150周年**という年を新たな展望の再起点にするために、西日本日独協会はドイツ大使館・総領事館などの協力も得て、文化、政治、経済分野など幅広く一般社会に向けて日独親善交流のための活動を展開する所存です。

西日本日独協会 会長 根本道也

2012 国際シンポジウム

「老後を生き生きと過ごすために…ドイツでは？日本では？」

[内容梗概]

日独両国は、交流開始から 150 年を経て文化的、政治的、社会的に様々な関わりをもって今日に至っている。西日本日独協会では、福岡県を基盤として、両国の文化・社会面を中心として親善交流の活動を長年行ってきた。例えば、2010 年 10 月には福岡オクトバーフェスト開催の実行委員として参画し(注、1)、また同年11月にはドイツ国際平和村(注、2)を支援するための講演会を開催した。これらの実績を踏まえ、福岡県における国際交流の推進を図ることを念頭に、日独両国が直面する社会的最重要課題である社会福祉・介護保障に関する国際シンポジウムを開催する。

高齢化社会を迎えるに当たって、社会福祉の拡充と財源確保との相克は解決されなければならないが、困難な課題でもある。因みに、2012 年には介護・医療費用のうち、公費は 23 兆円に達すると予測されている。この点で先進的に取り組んでいるドイツの諸事情を知ることにより、我々一般市民が今何をなすべきか、どんな将来展望を持つべきかを考え、行動するための契機としてこのシンポジウムを開催する。

[実施要領]

1. 日時、場所

2012 年 3 月 24 日 (土) 15 : 00 ~ 17 : 40

KKR ホテル博多

3. 開催団体

主催、西日本日独協会

(後援 ; 福岡国際交流センター、福岡県、大阪・神戸ドイツ総領事館、熊本学園大学、福岡市)

5. シンポジウム骨子

基調講演及びパネル討論会で構成する。

15 : 00 ~ 15 : 10 開会挨拶

15 : 10 ~ 16 : 00 基調講演「ドイツから見た日本の福祉 (仮題)」

Claus Eilrich ドイツ大使館社会保障問題担当参事官

16 : 00 ~ 16 : 10 休憩

16 : 10 ~ 17 : 40 パネル討論「日独両国における介護の実情」

18 : 00 ~ 20 : 00 懇親会

パネリスト

豊田 謙二 熊本学園大学教授 (コーディネータ)

下村 恵美子 宅老所よりあいデイサービス・グループホーム代表

黒木 邦弘 熊本学園大学准教授

舩津 邦比古 伊都の丘病院院長

C Eilrich ドイツ大使館参事官

(ほかにコメンター数名)

6. 期待される成果

豊田教授、黒木准教授は、デュッセルドルフ市の介護老人ホーム施設長や、また同施設に併設されている Zentrum Plus のソーシャルワーカーと共同して日独で介護・福祉の研究活動をしている。このほかのパネリストも夫々の実践活動を通して、介護や社会福祉に造詣が深い。

このシンポジウムを契機として、今後、福岡の一般県民のみならず福祉事業関係者等とドイツ側との人的・知的交流を進めるための機会となることも期待される。

[西日本日独境界の活動説明]

注1) 福岡の国際交流と地域活性化を目的に、博商会(中州・川端商店会)、RKB 毎日放送等と共に実行委員会を立ち上げ、2010年、2011年の10月に、福岡市内冷泉公園において、福岡オクトバーフェストを開催した。県内から約5万人が参加した。

注2) ドイツ国際平和村は、ドイツ・オーバーハウゼン市にあって、紛争地域や飢餓疲弊した貧困地域にあって医療の必要な子ども達をドイツに連れてきて、ヨーロッパ先進医療を受けさせるボランティア活動である。治療・リハビリを終えた子ども達は母国・家族のもとに帰国する。この支援団体として「ふりーでんす福岡」があり、西日本日独協会はその活動を後援している。

2011年11月には、日独協会例会の一環として、ドイツ国際平和村活動に関する講演会を開催し、募金も行ったところである。